



東大電気系150歳記念事業 “捕雷役電150” (寄附のお願い)

東大電気系（電子情報工学科・電気電子工学科）は、エアトン教授を師と仰ぎ、世界初の“電”の字を冠する学科として設置された工部省工学寮電信科をルーツに持ち、2023年に150歳を迎えました。これを祝し、学科とそこに集う若者の過去・現在・未来を「受け継ぎ育み飛躍する」ための記念事業“捕雷役電（ほらいえきでん）150”を企画します。

寄附目標：「150」にちなむ総額（単位：k円～M円まで）

※特命委員会で審議し、以下の目的から資金規模に応じて最適に活用します。

① 「過去」を受け継ぐ — 明治期からの歴史的卒業論文

工学部2号館図書室および電気系倉庫には、志田林三郎先輩を筆頭とし、明治、大正、昭和、平成に至る数多くの卒業論文が眠っています。これら**紙媒体の貴重な文書を、最新の技術でスキャンしてアーカイブ**します。図書委員（教員）を中心として検討の結果、一冊あたり数万円をかけ、専門家により後世の技術と比較しても遜色のないクオリティの電子データを取得します。

② 「現在」を育む — 電気系の教育・発信・交流環境整備

学部教育は、本郷キャンパス工学部2、3、10、13号館の講義室・実験室を中心に行われています。記念事業によって**教育・発信・交流環境を継続的にアップデート・アップグレード**します。21世紀初頭から15年ほどは、教育目的の補助金の枠組み（競争的資金）があり、電気系全体で獲得して教育研究環境を充実させてきました。最近では学科をまとまりにできる教育プログラムに乏しい一方、10年前に最新だった教育環境の経年劣化が目に見えて深刻化しています。更に、工学部3号館（2013年竣工）が10年のPFI事業期間を終え、今後自前で支える義務とともに改良のチャンスが到来します。

②-1 デジタル教育環境の更新・整備

講義室・会議室（全26部屋）のプロジェクトは10年前に大量導入。XGA解像度（1024×768）で見劣りする上、寿命を迎えつつある個体が発生中。ハイブリッド化も急務。

②-2 電気系“100名”教員の研究紹介場所「電気の回廊」整備

「3号館1Fの回廊をぐるりと回れば電気系が全てわかる」をモットーに「1教員1ポスター」で研究紹介。照明環境を良くし印象向上+「Web版電気の回廊」整備。

②-3 工学部3号館1Fへの交流スペースの設置

「電気の本質は交流にあり」という価値観のもと、本郷地区の建物には全て交流スペースが整備されていますが、工学部3号館にだけ欠けています。

③ 「未来」に飛躍 — 電気系としての国際交流プログラム

「長州五傑」として知られるように、幕末から明治にかけて欧州に留学した二十代半ばの若き秀才によって、近代日本の礎が築かれました。電気系21世紀COEが嚆矢となった「**博士学生武者修行プログラム**」は現在研究科に受け継がれていますが、十分な資金が集まれば、新たに留学対象を「**学部生**」「**職員**」「**教員**」に拡大したり、直近2024年3月7日に企画されている**グラスゴー大学との合同シンポジウム**での招聘旅費としたり、学科を主体とした短期・中期・長期国際交流の強化に新たに取り組むことが出来ます。

寄附先：「東京大学基金」に口座開設予定

- ・2023年9月13日審議予定。開設次第、「特設ページ」でご案内します
- ・東京大学への寄付は、確定申告により控除の対象となります。



特設ページ

文責・TF事務局：三田吉郎 教授（同窓会庶務幹事） EEIC150@if.t.u-tokyo.ac.jp



図1：渋沢元治教授の寄贈品（電気系会議室2）本事業では捕雷役電（ほらいえきでん）を「受け継ぎ育み飛躍する」の趣旨と読み解く。
<https://todaidenki.jp/hist/?p=984>



図2：電気系会議室2、3には名誉教授の写真が掲示されている。右よりW.E.Ayrton 教授、志田林三郎 教授、藤岡市助 教授、中野初子 教授。

図3：工学部2号館を北東入口より望む



図4：工3号館1F「電気の回廊」現状。廊下照明が暗く「乾電池式ランプ」で急場をしのぐ（丸印）。メンテナンスの重さ（教員の献身頼み）の割に美的アピールに乏しいことが課題。



図5：工3号館1F「交流ラウンジ」候補地。防火扉の奥側（炊事スペースとゴミ箱がある）を総合的に再開発。